

沿道の地
形

馬を驅り
て塵埃を
避く

ルブイの總郷約管轄の地なり。予はカザンクルの接館に休憩し、又行く五里にして雅瑪雅爾に入る。是日行程約十里とす、此地人家總計八百戸、市場の設あり。途上チョーカイヤル河以西は濕地鹹を含み、雨後通過困難なるを覺ゆ。而して翌八日ヤンドマを経て行程十里餘、喀什噶爾漢城に着す。此間喀什噶爾知府の派遣せし通譯官は沿道休憩所の設備其他諸般の事に就き非常に便宜を與へ、喀什噶爾漢城内なる疏勒府衙門に導かる、知府亦優遇、午餐を共にし、次で其の回城に入れり。

三、漢代の城址

以上の地形を總括すれば、道路は全部平坦にして、土地鹹鹵、沙島外は梧桐若くは灌木の林を成すもの多く、其の灌木帯には、鹹塊沙塊相交錯して突起し、丘阜の如く連綿重疊しつゝ、紅柳其上に生ひ茂り、遠く之を望めば、鬱々たる大森林の狀を呈せり。沿道は蚊虻亂れ飛び、鹹土に馬糞を混するの塵埃は、濛々天を掩ひて、眼を害し呼吸を塞ぎて、不快なること實に言語に絶し、殊に瑪喇巴什以西を甚しとす。されば旅客は多く車を捨て、馬を驅り、以て其の苦痛を薄ふせんことを勉む。車夫も亦夜行を喜びて晝行を願はざるは此故に因る。且つ一般に飲料水の不良なる有